

週報

こひつじ

第39巻 41号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

居場所を求めて

その二 父のもとへゆく

父の家は確かに広い。だが、現実の社会は自分の場所を見つけないことさえ難しいほどに狭く感じられることがあるのではないか。何と窮屈な所かと思う。

あるとき若い人たちが、これらの教会について語り合った。どんな教会にしたいのかと。

ほっとするような教会、家族のような教会、いやされる教会、どんな人も参加しやすい教会、そして、みんなが自分の居場所を見つけられるような教会。

彼らが求める理想の教会とは以上のようなものだった。

確かに、自分の居場所を見つけ

ることのできない教会があるとするれば、それは寂しい教会に違いはない。

独身だった妻が、ニコラス宣教師の伝道を助けるために九州に初めてやって来たときのことだが、彼女には、さっそく奥の一室があてがわれた。

そこには小さな台所があり、朝食と昼食は自分でやるという約束だった。もちろんそのことで妻に異論はなかった。

ところがあるとき彼女の母教会である東京の日野教会から数人の来客があった。伝道の手伝いに来たのだ。彼らは妻の友人たちでも

あった。

朝、登校中の高校生に教会案内をみんなで配ることになった。東京から来た友人たちもいっしょに配った。楽しい伝道のひとときだった。

さて、帰ってくると、宣教師のダイニングルームの広いテーブルにはすでに朝食の準備ができていた。東京からの来客の席もそこにある。

妻は、当然、それらの友人たちと朝食をとみにできるものだと思っ手伝いにかかった。

そのとき彼女はふと思いついた。「朝食はそれぞれで食べる」という宣教師家族との約束を。

しかしこんなときは例外だろう。まさかと思っただけ、彼女は準備されている席を数えた。自分の皿はなかった。

彼女は、自分が勘定に入れられていないことを知って愕然とした。すぐに自分の部屋に戻ったが、

彼女の心は動揺していた。自分の友人たちは宣教師のダイニングルームで交わりをしながら朝食をと

るというのに、なぜ、自分の席はそこになのか。

たとえ約束とはいえ、交わりから遮断された自分が悲しかった。居場所のない自分がつらく思われた。

それはルールや約束で成り立っている西洋の文化と、お互いの感情や気持ちを大切にしようとする日本の文化の違いであったかもしれない。

しかし、このことで傷つくのか、それともそれを乗り越えるのか。それは彼女の選択次第だった。

傷つけば、そのことはいつまでも尾をひくだろう。宣教師への信頼がぐらつくことにもなるだろう。彼女の動揺の原因は何だったか。宣教師の食卓に自分の場所がなかったことだった。

しかしイエスは言われなかったか。

「心を騒がしてはなりません。わたしの父の家には、住まいがたくさんあります」と。

人との交わりからは遮断され、孤独を感じたが、彼女はそのとき不思議にも神がともにいてくださ

るのを感じたという。

その結果、彼女の心は、傷つくことからも悪意を持つことから守られたのだ。

彼女に起こったこととは何か。

神が彼女の心を広げ、彼女の心の中に場所を作ってくれさせたということだ。

その場所とは、ひとり神とともに過ごす豊かな、うるおいのある、慰めに満ちた広い空間だ。

それこそはイエスが私たちのために備えてくださっている場所であって、私たちの唯一の、そしてほんとうの居場所なのではないか。なのではないかと思う。(続)

そして、逆説的だが、われわれが、自分の居場所を父の家に求めるとき、この世のどこにいても、自分の居場所を見つけたことができるのである。

だからまずは、父のもとへゆこう。そこには住まいがたくさんあると言われているのだから。

そこへゆくと、見方が大きく変えられる。もう自分の場所はどこかと問わない。全部が自分の場所なのだ。

けれど、妻はのちに、そのとき

の出来事を振り返って、こう言った。

「朝食のテーブルに自分の席がないことを知ったとき、もし私がつと謙虚だったら、動揺しないで、自分の願いを正直に宣教師に言っただろう。そうすれば、宣教師は喜んで私のために席をつくってくれたはずである。今思えば、なぜ、もっと素直でいらなかったのかと思う。今の私なら、きっとそうしただろう」

どんときも素直であること、これもまた自分の場所を見つけた道ではないかと思う。(続)

***** 今日の日礼拝 *****

今日の日礼拝

***** 今日の日礼拝 *****
○第一礼拝は午前10時から、
第二礼拝は午前11時から。
○教会学校は午前10時から。
○説教は、米村牧師。

先週の礼拝

***** 先週の礼拝 *****
○司会は林田実季さん、奏楽は吉岡隆夫さん。
○賛美のあと、古谷良司さんの

***** 先週の来会者 *****

洗礼式を行ないました。前回の洗礼式には、古谷さんの家族全員がコロナに感染して参加できませんでした。そこで一〇月を予定していましたが、今度は牧師が、コロナに感染し、まだ体調が万全でないことから、滴礼で行なわれませんでした。来年は、いつもの洗礼場で行ないたいと思っています。

○説教は米村牧師。

申命記一四の一―三から。自分の身に傷をつけてはならないという言葉について。

私たちクリスチャンも、傷ついた心のままで長く過ごしてはならないのだと思います。では、そのためにはどうしたらよいか。

そのことが先週の説教の中心テーマでした。

先週の出席

***** 先週の出席 *****
第一礼拝が四六名、第二が四三名、合計八九名(男二九、女六〇) 子ども九名。合わせて九八名。

先週の来会者

***** 先週の来会者 *****

一〇月一五日の礼拝にアメリカのサクラメントから荒井孝喜牧師のご長男、孝太郎夫妻が礼拝に来られ、挨拶をしてくださいました。熊本地震のときも、お見舞いをいただきました。遠くにいて大津教会のことを覚えて祈っていたているのは感謝です。

***** 牧師身辺 *****

***** 牧師身辺 *****
ぼくたちはコロナに感染し、週報もお便りも、そして説教も、数回お休みしてしまいました。皆さんが協力して、教会を導いてくださったことは感謝です。また、ぼくたちにとっては、休養のときでもあったように思います。今はもう元気です。ご安心ください。

***** 先週の来会者 *****
大津教会の礼拝は、YouTubeで今も配信されています。礼拝を休まれた方のために始めたのですが、県外在住で、お会いしたことがない方もご覧になっているようです。ときどき、感謝のお便りをいただきます。お役にたてて、うれしく思います。